令和６年　11月　５日

会津美里町議会議長　大竹　惣　様

産業教育常任委員会委員　　櫻井　幹夫

行政視察研修報告書

産業教育常任委員会行政視察研修について、下記のとおり報告します。

記

１　視察日程　　令和６年１０月２１日（月）～ ２３日（水）

２　視察・見学先　　**◆長野県安曇野市**

・安曇野市里山再生計画について（耕地林務課）

◆新潟県十日町市

・大地の芸術祭について（文化観光課）

・まちの産業発見塾について（産業政策課）

◆川場田園プラザ（群馬県利根郡川場村）

３　報告事項

安曇野市「里山再生計画」では、同事業において全国的にも先進地でありながら現状は厳しい（参加者が少ないなど）ことを知りました。問題点は共通していますので本町において同様の取り組みを行うには、行政としてのリードがこれまで以上に必要と考えます。安曇野市では計画策定までに３年を費やし、そのうち１年間（２年目）は、現地に足を運んで状況把握にあたったとのことでした。机上のみで作成された計画では成果は見込めません。民意を動かすことはできません。行政として真剣に取り組むのであれば、改めて現地に足を運んでの計画見直しから進めることを望みます。

十日町市の「大地の芸術祭」では、資金があるからではなく費用の半分以上は職員が必死に集めていることを知りました。芸術は直接の経済効果が現れにくいかもしれませんが、人々の交流やコミュニティの醸成によりその効果を発揮します。しかし本町では同様な規模では必要最低限の資金さえも到底集められるものとは思えませんので、本町は本町ならではの芸術祭（祭典とはいわないまでも）を行い、人々の交流やコミュティを作り上げるべきと考えます。具体案として、子どもたちと地域の人々で旧小学校のグランドにモニュメント（のようなもの）を作成することを提案します。その地域の子どもたち（小学６年生）が中心となり地域の人と協力して作成していきます。作品は地域のシンボルとなり、地元を離れたときや成人したとき、親になって帰ってきたときなどに、その場所を訪れる機会が生まれますし、あらためて地元地域との交流につながるものと考えます。

十日町市の「まちの産業発見塾」では、中・高校生に地元企業の紹介を行っており、その成果が地元就職率に反映（高卒管内就職率R4、56.9%）されていました。本町においても若者の人口減少は重大な課題であり、その原因の一つに卒業後の就職問題があります。子どもたちには地元には就職先がないという意識づけがされているように思います。学生時代において、自分は何がやりたいのか明確な答えを持った生徒は多くありません。そのため進学（首都圏の大学）しそこで答えを探そうとする訳ですが、その答えを見つけられる生徒はわずかです。中・高校時代に地元企業を知ること、職業体験することは、子どもたちの自分発見につながるものと思います。企業側の協力なくしては成り立たない事業ですが、まずは行政から企業に対して働きかけを行ってみてはどうかと考えます。

「川場田園プラザ」は、いわゆる単純な店舗の道の駅ではなく、敷地内には子どもたちが自由に遊べる公園や遊具が広範囲に整備されていました。更には広大なブルーベリー畑（無料で摘み取り可）や遊歩道（展望台など）が整備されており、大人から子供まで長時間過ごしても飽きることがない印象を受けました。
本町においては、現在計画されている旧本郷一小跡地の利活用計画案では、単なる公園の建設計画ですが、ぜひとも川場田園プラザを参考とすべきと考えます。飲食店を併設し誘客を行ってはどうでしょうか。白鳳山公園との動線をつくれば更に広大なテーマパーク化が図れます。これからは単体の施設としてではなく複合型施設にすることで、多面的な産業の活性化を図るべきと考えます。

令和６年１１月５日

会津美里町議会議長　大竹　惣　様

産業教育常任委員会委員　　荒川　佳一

行 政 視 察 研 修 報 告 書

産業教育常任委員会行政視察研修について、下記のとおり報告します。

記

１　視察日程　　令和６年１０月２１日（月）～ ２３日（水）

２　視察・見学先　　**◆長野県安曇野市**

・安曇野市里山再生計画について（耕地林務課）

◆新潟県十日町市

・大地の芸術祭について（文化観光課）

・まちの産業発見塾について（産業政策課）

◆川場田園プラザ（群馬県利根郡川場村）

３　報告事項

◆長野県安曇野市

安曇野市里山再生計画に基づき、「さとぷろ。」４つのプロジェクトを軸に自然が好きな様々な年齢や職種の人たちが里山での森づくりから、里山資源の活用・情報発信など活動を次の４つのプロジェクトを実施。

１．里山まきの環プロジェクト

住民、事業者、行政が協働して、木質バイオマスのうち最も身近に利用できる地元産の「薪」を自らの手で生産し、活用しながら地産地消の浸透を図る。管理されていない森林に手を入れることで、薪の生産及び森林整備も行いながら、薪利用を促進させ、現代版の里山資源利用の在り方の仕組みを構築する。

２．里山木材活用プロジェクト

里山で生産されている木材の生産・流通・消費に関する個人・事業者（森林組合・木材業者・建築士など）・行政が協働して、小規模な地域材市場の構築を目指す。里山から私たちのくらしまで、木材の生産現場と消費者が繋がる新たな枠組みづくりに取組む。

３．里山学びの環プロジェクト

里山で様々な活動をするための技術・知識を身に着け、里山で楽しむ活動の輪を広げるリーダーを育成するために、「さとぷろ。学校」を企画・運営する。プロジェクトの取組が「里山の理解者・行動者」を育て、住民・事業者を啓発し、自発的な里山活動に繋なげて行くことを目指す。

４．里山の魅力発見プロジェクト

里山がもつ様々な魅力を発信する取組を企画し、楽しむ仲間を増やす中で、里山の豊富な魅力を明らかにし、里山を楽しむ場、機会の多様化を目指す。また、里山への関心が薄れてしまったことによる松枯れ被害や鳥獣被害などの課題に向き合う仲間を増やし、楽しみながらその解決に向かう取組を企画する。

質疑応答（荒川佳一）

Ｑ森林環境贈与税をどのような事業に活用したのか。また、事業実施したことでどのような効果があったか。

Ａ令和６年度まで森林経営管理制度の推進に活用しています。制度運用をマニュアル化し、令和５年度において市内の個人有林の一部について市が森林所有者から委託を受け、間伐等の整備を初めて実施した。今後は林業事業体への補助事業や木材活用、人材育成等の事業にも活用するよう、現在制度設定を進めている。

＜まとめ＞

町内の森林については、町民・事業者・行政が協働し、安曇野市「さとぷろ。」のプロジェクトを参考に森林を理解する人づくりが必要である。

◆新潟県十日町市

・十日町市大地の芸術祭について

３年に一度の広大な越後妻有を舞台に繰り広げられるアートの祭典は、1994 年新潟県知事が提唱した広地域活性化政策「ニューにいがた里創プラン」に則り、アートにより地域の魅力を引き出し、交流人口の拡大等を図る 10 カ年計画「越後妻有アートネックレス整備構想」がスタートした。

そのアドバイザーとして、アートディレクター・北川フラムに声が掛かり、これが出発点となり、地域活性事業の柱として「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」が 2000 年に始まった事業である。

大地の芸術祭の開催地域は次の６つのエリアで構成されている。

①**十日町 エリア**は、信濃川の東側に広がる織物と農業を柱として形成された地域であり、少子化によって廃校となった小学校が 10 校以上を「鉢＆田島征三 絵本と木の実の美術館」などの作品が展示されている。地場産業である織物の文化も街の随所に見ることができる。

②**川西 エリア**は、信濃川の西岸にある高さ 50ｍの段丘上に広がる地域。ジェームズ・タレルの「光の館」や、住民によって運営されるブルーベリー園「ベリー・スプーン」が体験できる。

③**中里 エリア**は、信濃川をはじめ、清津川、釜川、七川と水に恵まれた地域。釜川のほとりでは、ゴミ捨て場に変わり果てたかつての遊び場を、フィンランドの建築家グループ「カサグランデ＆リンターラ建築事務所」が美しい公園となっている。

④**松代 エリア**は、信濃川の支流である渋海川沿いを中心に広がる、周囲を山々に囲まれた丘陵地帯。棚田景観で有名な星峠集落の民家を活かした作品「脱皮する家」では宿泊体験ができる。

⑤松之山 エリアは、長野県境に位置する周囲を山々に囲まれた標高 200～600m の丘陵地帯。標高 700mには緑あふれる大厳寺高原もあり、四季折々の自然がある。

⑥津南 エリアは、新潟県の南端、長野県の県境に位置する地域。木造小学校を活用した秘境の宿「秋山郷結東温泉：かたくりの宿」や縄文時代中期の遺跡がある。

＜まとめ＞

町商工会、町観光協会と連携し町内の名所や旧跡のＰＲを工夫することで来町者の誘客する事業が必要である。

・まちの産業発見塾について

十日町市では、地域を支える産業や企業を知って、理解して、体験する機会を設けることで、地元十日町市について学ぶとともに、将来的な十日町市への就業・定着意識の醸成を図るため、平成 29 年度から市内の中学校・高校・支援学校の生徒を対象にした「まちの産業発見塾」を道の駅で行っている。

質疑応答（荒川佳一）

Q参加した生徒の地元企業への就職状況はどのようになっているのか。

A市内高校生を卒業した生徒の管内就職率は進学を除き、平成 29 年度～令和４年度は約４割から６割弱となっており、令和５年度に就職率が減少した理由としては、コロナウイルスの５類移行等により、関東を中心とした県外への就職を希望する学生が増えたことと推測する。

＜まとめ＞

本町も人口減少や少子化問題等を解決するため、地元企業と連携しながら更なる対策が必要である。

◆川場田園プラザ（群馬県利根郡川場村）

川場田園プラザは、人口約 3,300 人の川場村に年間約 200 万人が訪れ、リピート率は７割という全国で大人気の道の駅となっている。広々とした敷地内には観光案内所をはじめ、ショッピングや食事が楽しめる施設があり、地場産の新鮮野菜が並ぶファーマーズマーケットや物産センター、ギフトショップなどがある。さらに、公園に隣接するプレイゾーンには大型の複合遊具やターザンロープ、砦などのさまざまなアスレチック遊具、丘の斜面を利用した芝滑りが楽しめるゲレンデなどがある。本町にも親子で楽しく体を動かせるこのような施設があれば、町内の観光や町民の健康づくりに繋がると確信する。

令和６年１１月５日

会津美里町議会議長　大竹　惣　様

産業教育常任委員会委員　小島　裕子

行 政 視 察 研 修 報 告 書

産業教育常任委員会行政視察研修について、下記のとおり報告します。

記

１　視察日程　　令和６年１０月２１日（月）～ ２３日（水）

２　視察・見学先　　**◆長野県安曇野市**

・安曇野市里山再生計画について（耕地林務課）

◆新潟県十日町市

・大地の芸術祭について（文化観光課）・まちの産業発見塾について（産業政策課）

◆川場田園プラザ（群馬県利根郡川場村）

３　報告事項

＜ 安曇野市里山再生計画について ＞

里山とは、人里近くに広がる森林を主体に、草地や田畑・ため池を含めた一帯をさし、人々が日々の燃料（薪など）や肥料（落ち葉）、そして馬や牛など家畜の餌を採取するための場所であり、集落の生活に欠かすことの出来ない自然環境でした。そのため里山は人々の利用によって自ずと管理・維持され、自然資源が受け継がれてきた。

しかし、1960 年代に生活様式の変化とともに全ての自然資源が使われなくなり、里山の利用価値が急激に低下し、里山は放置されることになった。

その結果、水源涵養機能や土砂災害防止機能の低下、鳥獣被害など様々な問題が生じてきた。

そうした問題の解決へ向け災害の少ない安全な里山と、良好な里山の景観をあるべき姿に再生し、元気な里山を取り戻すために、市民・事業者・行政が連携し、安曇野市里山再生計画「さとぷろ。」が 2015 年に開始された。

手探りで計画を推進し、様々な企画を立ち上げ仲間を増やす第 1 次計画から、第 2 次計画へと取り組みを継続することで、活動の広がりと深まりが増してきているととらえている。今後より多くの市民や事業者が気軽に楽しく活動にかかわることができる仕組みと「さとぷろ。」の周知が重要と考えている。

2023 年には任意団体「さとぷろ。機構」が誕生し今後の活動支援を担っていく。

【 第 1 次計画 】		【 第 2 次計画 】
・木質バイオマス利用促進プロジェクト	→	里山薪の環プロジェクト
・安曇野材利用促進プロジェクト	→	里山木材活用プロジェクト
・里山学校プロジェクト	→	里山学びの環プロジェクト
・里山保全・体験学習プロジェクト	→	里山の魅力発見プロジェクト
・松枯れ対策実践プロジェクト	→	〃

--- 計画の未来像 ---

1. 多種多様な環境から成り立つ里山
   林床に咲く花や昆虫、鳥類・動物などが多様に生息する場となる。
2. 多くの人々が里山を資源として利用
   親しみがもてレクリエーションの場、森林資源を得る場、大自然の営みを知る場となる。
3. 災害の少ない安全な暮らしをもたらす里山
   木材利用の進展に伴う。

所感： 町の73%を占める森林も安曇野市と同様に、戦後から高度経済成長期に植栽され利用可能な時期である。町は森林資源活用ビジョンにおいて、森と里が繋がる、美しいまち、会津美里町。が定まった。住民の生活に受け入れられる森との共生や後継者育成に「さとぷろ。」のプロジェクトは大いに参考となる。

＜ 大地の芸術祭について ＞

アートによる地域づくりの先進事例で、アートを道しるべに里山を巡る。日本各地で開催されている地域芸術祭のなかでも、世界最大級の国際芸術祭（3年ごとの開催）。

きっかけは、平成6年の新潟県の施策「ニューにいがた里創プラン」（県の支援する県内広域行政圏で実施する地域活性化施策）で第1号認定を受け、平成8年地域活性化施策「越後妻有アートネックレス整備構想」を策定した。

平成12年の入れ込み客数に対し平成30年は約3.4倍の54万8千人を超えており、参加集落は102集落、会期中作品は379作品となっている。トリエンナーレ期間外も約200点の作品を散在点在させ、里山の美しさ豊かさを際立たせている。そこに積層した人間の時間を浮きあがらせるアートを道しるべに、人々は五感を開放し、生の素晴らしさや記憶を全身に蘇らせるとしている。

平成20年2月に、大地の芸術祭のサポートや住民が誇りをもって暮らしていける地域にすることを目的に地域内外の方から組織される団体「ＮＰＯ法人越後妻有里山共同機構」関連プロジェクトも展開されている

・Rooooots 越後妻有のリデザインプロジェクト
  地域名産品を地元業者と全国の若手クリエータをマッチングし、既存の地元産を新しいパッケージデザインに製品化する。

・まつだい棚田バンク
  地域に数多い棚田の担い手不足。棚田保全への棚田オーナーを募集。

＜ まちの産業発見塾について ＞

産業発見塾は、地域の中学生・高校生を対象に、地域を支える産業や企業について、「知る場」「理解する場」「体験する場」を設けることで、地元について学ぶとともに、将来的な就業意識の醸成を図り、人材確保の促進につなげる活動の一歩としている。

産業発見塾主催：十日町地区雇用協議会

事業概要

・企業ブースを設け、生徒を対象に各企業の事業内容の紹介・体験を実施（年１回）
・生徒はグループ単位（５～６人）でブースを回り、説明・体験等を実施。
・各校はグループ数に応じたブース数を割り振る（事前通知）
・スケジュールは午前・午後とも２時間15分で３ブース（１ブース18分）を回り最後にフリータイム（25分）
・開催後に企業・団体・教師・生徒へのアンケート調査を実施。

成果：管内就職率＝初回(平成29年)38,8%から多い年度は58%を超える。
　　：各アンケート結果からも本事業に対する理解度及び評価は高い。

課題：参加企業の増加に対し、ホールを増やすなど対応したが、今後は会場等も含め検討が必要。

所感：　本町としては、広域も視野に取り組んでいくことで効果が期待できるのではないか。

＜ 川場田園プラザ ＞　観光庁長官表彰ほか数々の賞を受賞

森と川と田んぼの広がる日本のふるさとそのもの人口3.500人の村に、年間250万人が訪れる。村には石積みの棚田や果樹園が広がり、多くの人が農業に携わっており、冬は川場スキー場でのウインタースポーツが盛んで四季を通じ楽しめる場所である。そのどこにでもあるような田舎の一角に田舎とは思えない道の駅「川場田園プラザ」が広がる。川場産の新鮮野菜などを販売する「ファーマーズマーケット」「ミート」「ミルク」「ビール」「ベーカリー」「チーズ」食品加工・販売所、地場産品を生かした各種レストランなどが田舎とは思えないお洒落な店構えで並んでいる。その周囲は管理の軽減を図れる人工芝が敷き詰められ、子どもから高齢者まで思い思いに輪になったり、ボール遊びをしたり、寝転んだり、ゆったりとした時間を過ごせる魅力的なアイディアに思えた。(町内の公園にぜひとりいれてほしい。）アスレチックや大型滑り台が並ぶプレイゾーンのほか、中に入れる消防車なども含め遊戯施設も目を引く。期間限定無料食べ放題のブルーベリー公園など、この川場田園プラザが川場の価値を引きあげ魅力を創り出している。リピート率は７割を超える。

所感：いずれにおいても人材の獲得と地域住民の意識の醸成と協働の拡大が最も課題となる。観光に関して付け加えて言うのであれば、清潔感の保持にはプロを思わせる取り組みがあってこそ魅力を発信し続けられると考える。

令和６年10月28日

会津美里町議会議長　大竹　惣　様

産業教育常任委員会委員　鈴木　繁明

行政視察研修報告書

産業教育常任委員会行政視察研修について、下記のとおり報告します。

記

１　視察日程　　令和６年１０月２１日（月）～ ２３日（水）

２　視察・見学先　　**◆長野県安曇野市**

・安曇野市里山再生計画について（耕地林務課）

◆新潟県十日町市

・大地の芸術祭について（文化観光課）

・まちの産業発見塾について（産業政策課）

◆川場田園プラザ（群馬県利根郡川場村）

３　報告事項　　**◆長野県安曇野市**

・安曇野市里山再生計画について

里山再生計画は、安曇野市で生活する市民事業者、そして行政が、市内の里山の重要性と現状を再確認しながら、里山を守るためにどのような活動をしていくかを明らかにした計画生活様式の変化により里山の利用が減り、里山に人が入らなくなったことで、放置される森林が増加し、「小動物が里山に出て農作物を荒らしてしまう」という生活への影響を懸念する声や、里山が持つ機能の低下への懸念の声も聞かれている。

このような問題の解決のため、多くの方に里山に関心を持ってもらうことが重要と考え、現在の生活様式にあった里山の利用から再生に繋げていく方策を探る計画を策定した。

平成２７年から５年間を第１次計画期間と位置づけ、計画が描く里山の未来像を目指し、市民・事業者等を里山と結びつける様々な活動が行われてきた。

第１次計画期間は手探り状態で始まり５年が経過したが、取り組みの振り返りを行うと様々な課題が明らかとなった。

第２次計画では、市民・事業者及び行政がどのように関わって行くかを具体的に示し、参加する関係者それぞれが利点

を感じながら活動できる仕組みの構築を目指す。
　５つのプロジェクトから、４つのプロジェクトにし、誰もが自由に参加できるようにした。
市民・事業者・行政の立場・関わり
〔里山再生プロジェクト内の連絡・調整〕
（各プロジェクト内の連絡・調整）
里山再生計画における様々な取り組みを浸透させるため、愛称を「さとぷろ。」と名付けホームページを開設し、さとぷろ。活動の紹介を行っている。
　こうした活動と地道な取り組みが実を結び、市内外の里山に関わる方は着実に増えている。また、里山再生活動に興味を持つ仲間を増やす活動を行い、その人数は３９０名程に達している。
〔第３次計画への流れ〕
　令和６年度第３次計画の策定
※これから「さとぷろ。」に求められる役割
　・さとぷろ。関係者の増大とネットワーク化
　・さとぷろ。取り組みの多様化
　・フィールドの多様化
　・里山ニーズとプレイヤーの接続
　・ノウハウやネットワークなど情報の蓄積
（事務局からの提案として）
　里山再生のプラットフォーム（土台）となる組織
　「さとぷろ。」機構の設立

◆新潟十日町
　・大地の芸術祭について
　大地の芸術祭は、世界最大級の国際芸術祭であり、アーティストと地域住民の協働により地域に内在する様々な価値を堀り起こし、その魅力を高め、世界に発信し、地域活性化に繋げる。平成２１年から３年に１度開催されている。
　大地の芸術祭の開催に多くの作品が展示され、来場者も増えているが、継続するには予算が６億円もかかり、時間と労力が必要な為３年に１度の開催とした。
　広大な里山を舞台に２００の集落を手掛かりに作品を散財・点在させ現代の合理化、効率化の対極として徹底的な非効率化を試みてる。
　大地の芸術祭の始まりは新潟県が地域活性化のために計画した「里創プラン」です。

・まちの産業発見塾について

十日町市、津南町の事業所・団体がそれぞれのブースを作り、中魚沼地区の高校１年生又は２年生、中学１年生又は２年生に事業内容の紹介や体験を提供している。

参加事業所のアンケート結果は説明をしっかり聞いてもらえ概ね理解してもらったと感じた。

今後の進路や就職を決める為にも役に立つと思う。

◆川場田園プラザ

川場産新鮮野菜などを販売

地場産品を活かした各種レストラン

全国でも１日を楽しめる大人気の道の駅

令和６年１１月５日

会津美里町議会議長　大竹　惣　様

産業教育常任委員会委員　横山知世志

行 政 視 察 研 修 報 告 書

産業教育常任委員会行政視察研修について、下記のとおり報告します。

記

１　視察日程　　令和６年１０月２１日（月）～ ２３日（水）

２　視察・見学先　　**◆長野県安曇野市**

・安曇野市里山再生計画について（耕地林務課）

◆新潟県十日町市

・大地の芸術祭について（文化観光課）

・まちの産業発見塾について（産業政策課）

◆川場田園プラザ（群馬県利根郡川場村）

３　報告事項

川場田園プラザについて

人口 3,300 人程度の農村地帯の小さな村に年間 200 万人の集客は驚異であった。周囲は大きな国道が通るでもなく、有名な観光地もない場所なのに、一日丸々遊べる道の駅といわれている。由来は地元の農家の農産物直売所が発端とのこと。施設内にはそれぞれ特徴あるグルメ、食材をはじめとして珍しい店が多く並び、どれも興味を引くものばかりであった。もともと原野や畑を整地しての施設で適度な起伏があり、自然を感じさせられる地形である。しかも子供や大人も飽きさせない施設で、まさに一日中遊べる施設となっている。従来、道の駅とは国道沿いで観光地が近くにあるのが定番であったが、それにこだわらず、アイディアと工夫があれば成功するものと実感した。本町は大きな国道もなく、通りは地元民以外は少ない状況であり、人が興味を持つような施設にすることで、地元産品の消費も拡大できるものであり、地域経済に貢献できるのではないかと考える。ぜひ、担当課も研修して参考にすべきと推進していく。

安曇野市里山再生計画について

里山再生には地域の理解と協力が不可欠であり、行政と一体となって取り組むことが大事だと感じた。山を持たない平地に住む住民にいかに理解をしてもらうかが難しいと思う。里山の利用価値とその廃退によって自然や生活環境がどう変わるかをもっと説明していくことが必要で、多くの方に関心を持ってもらうような行政の取り組みが必要である。短期間での完遂は望めないが、先ずは一歩でも進めたら必ず理解が深

まることであろう。行政も腰を据えてかからねばいけないし、その重要性を認識すべきと思う。

新潟県十日町市　大地の芸術祭について

越後妻有アートトリエンナーレは十日町市と津南町との合同で、管内各地でアートの展示をする企画で、あいにく当日は各施設が休刊日という事で、一部の作品しか目にできなかったが、果たしてこれがアートかと、自分の思い描いていたものとは違うことで戸惑った。芸術の知識や興味がない私には違和感しかなかった。ただ見ていると落ち着くことは感じられた。少し興味をもって勉強してみる事にする

新潟県十日町市　まちの産業発見塾について

十日町市・津南町との共同企画で十日町地区雇用協議会の主催で、中高生を対象とした企業紹介事業と理解した。生徒数が多いためか、一企業のブース面接が 18 分程度と短いことが気になった。その成果として、管内就職率もコロナ禍を除けばおおむね 50％程度と良好であり、効果はあるものと感じた。本町に考えれば企業数や中高生の数も比較できないが、もし企画するならば広域的な規模で企画すべきで、本町単独では到底無理であろう。会津地区の企業も、高校生を対象とした同様の企画はあるが、規模的には少々物足りない気もする。会津総合開発協議会での議論を待つ必要があると感じた。

令和６年 11 月 5 日

会津美里町議会議長　大竹　惣　様

産業教育常任委員会委員　横山義博

行政視察研修報告書

産業教育常任委員会行政視察研修について、下記のとおり報告します。

記

1　視察日程　　令和６年１０月２１日（月）～ ２３日（水）

2　視察・見学先　　◆**長野県安曇野市**

・安曇野市里山再生計画について（耕地林務課）

◆**新潟県十日町市**

・大地の芸術祭について（文化観光課）

・まちの産業発見塾について（産業政策課）

◆**川場田園プラザ**（群馬県利根郡川場村）

3　報告事項

〈安曇野市〉

1、里山再生計画実施にあたり、市民が参加し易いイベントを中心に実施している。皆伐や再造林をこれの程度の面積で計画的に行なうので参加しやすい（市民）。又、昔の里山利用と現在の利用には変化が起きており、現在に合った参加を実施している。

2、林業士会が有り、林業に関する活動を行なっている。（我が町には林業士会は組織されていない。）

〈十日町市〉

○まちの産業発見塾について

中、高生徒を対象としたユニークな企業を知る事ができ、普通考えられる企業訪問ではなく企業を一同に開しての知る機会は考えがおよばなかった。

我が町の中、高生徒も実施されれば、地元(会津)への関心が高まるはずである。

○大地の芸術祭

あいにく2日間が芸術祭休日の為施設内に入れず、残念であった。

只し、文化観光課の3年毎の開催意欲には多いに今後も期待したい。

令和６年11月５日

会津美里町議会議長　大竹　惣　様

産業教育常任委員会委員　　根本　謙一

行　政　視　察　研　修　報　告　書

産業教育常任委員会行政視察研修について、下記のとおり報告します。

記

1　視察日程　　令和６年10月21日（月）～23日（水）

2　視察・見学先　　◆長野県安曇野市

・安曇野市里山再生計画について（耕地林務課）

◆新潟県十日町市

・大地の芸術祭について（文化観光課）

・まちの産業発見塾について（産業政策課）

◆川場田園プラザ（群馬県利根郡川場村）

3　報告事項

◆『安曇野市里山再生計画について』

全国でも類例がないこの計画取り組みは平成27年に第１次５年間が始まり、現在は第２次計画最終年で計10年目に当たっている。策定趣旨を「市内で生活を営む市民、森林所有者、事業者の皆さんに私たちの暮らしを守り、豊かにしてくれる里山の再生に向けた取り組みを一緒に進めて頂きたい」としている。「里山からつながる安曇野共生プロジェクト」は愛称を「さとぷろ。」として統合的取り組み４つのプロジェクトがある。第１次計画の成果と課題から第２次計画での方針を幅広い年齢層と多様な仲間を増やし、ネットワークを構築しよう！里山におけるニーズと活動をつなぎ、里山再生のメリットを創出しよう！とした。国の「ＳＤＧｓ未来都市」「自治体ＳＤＧｓモデル事業」にダブル選定され、補助金を活用して市内全体でＳＤＧｓ寄与に向けて推進して行くとしている。

現在の課題としては、社会貢献や環境面での大きな成果挙げているが、地域経済の活性化といった経済面での寄与が弱い。また、より一層活動を深めていくためにも、他の分野や主体との連携が重要になると述べ、次の第３次計画へ向けての提案として、里山をキーワードに分野の枠を超えた連携や関係人口の創出を図る。そして、「里山で稼ぐ、里山に学ぶ、里山を守る」といった活動・体験を通じて、あらゆる人が安曇野の里山に関わるきっかけづくりの体制整備として里山再生のプラットフォームとなる「さとぷろ。機構」を設立しての５つの取り組みを示してる。

【考　察】

「安曇野市里山再生計画」は最上位計画の総合計画基本理念や将来像について、特に環境面でこれらを実現するために、環境基本計画が上位計画としており、関連する個別計画と位置付けてい

る。本町に環境基本計画は無いが、本年度漸く「会津美里町森林資源活用ビジョン」を策定して、将来像、３つの基本方針、３つの推進方策、３０の推進事業を定めている。実効性が問われてくるが、安曇野市の取り組みは民間主導を目指していることで大きな違いがある。様々な企画を立ち上げて市民との関わりを創出して来た。農林部長は１３年関わってきているその情熱には実に感心する。所管長の使命感とトップのビジョンが明快であるが、道半ばであり１０年近く掛けて機構設立し運営体制を強化して、２期目までの行政主導から移行を図ろうと苦心されている。人材育成に転勤･移動必須の職員では困難さもあり、地域おこし協力隊も検討中の由には同感する。

安曇野市の林野率は60.2%で民有林と国有林が半々である。人工林の樹種構は針葉樹が56.8%で構造材として多用されるアカマツ、カラマツで８割、ほかヒノキ、スギ、サワラなどで８割近くが伐期を迎えており広葉樹は43.2%である。本町のスギ25%、ナラその他の広葉樹71%、アカマツ・クロマツ3%、カラマツその他で全く質を異にしているが、約７割が収穫期に当たっている。本町の「森林資源活用ビジョン」を基に、市民・事業者・行政を繋いだ様々な当市の取り組みからヒントを生かした質問等をしていきたい。国も注目している最先進取り組み視察であった。

◆『大地の芸術祭について』

大地の芸術祭は２０００年平成１２根に始まった。越後妻有地域（十日町市・津南町）を舞台に３年に１回開催(トリエンナーレ)される世界最大級の国際芸術展である。きっかけは新潟県の広域行政圏で実施する地域活性化施策「ニューにいがた里創プラン」の第１号認定でした。平成８年に「越後妻有アートネックレス整備構想」を策定し、アートによって発信し、地域の元気を取り戻すという壮大なプロジェクトで「里山でアートを巡る旅」がスタートした。五感で体感するアートによる地域づくり、アートを通して棚田など地域の魅力を感じる。真にその場で成立する芸術作品群であり、その場に行かなければ観れない作品たちなのである。この構想は総合ディレクター北川氏(75歳)との出会いから生まれ、キーマンとして推進役をしてきている。更に、彼の取り巻き応援者の存在も大きかったと説明がある。

[整備構想]

１．越後妻有８万人のステキ発見事業(地域の自然・文化の魅力を写真と言葉コンテ)
２．花の道事業(道路や民家の庭先などに花を植えて広域圏を繋ぐ)
３．ステージ整備事業（有名なアーティストや建築家の参画により交流拠点整備）
４．大地の芸術祭
５．協働による作品制作
（住民・アーティスト・サポーターで制作、里山・集落内・住宅地など広域に展開）
６．大地の芸術祭サポーター「こへび隊」（サポーターの総称で必要不可欠な存在）

本年は第9回目を迎えて7月13日～11月10日まで、火水曜日を定休にして全87日開いている。事業費は第1回が4.74億円、第3回で最多の6.7億円、前回の第8回が約6億円と推移している。肝心の一つである経済効果としては、当初の2回においてはハード面の整備もあって100.54億円、131.9億円となったが、前回は82.61億円となっている。入込来場者の推移を見ると、第1回の16.28万人から前回の57.41万人となって3.52倍の実績を上げている。作品数は当初の倍で

300超を維持し、展示集落は当初の28から109に増加、参加アーティストは148人から263に増えている。参加国は38か国で40超の回も何度かあった。真にトップレベルの国際芸術祭になっている。

[残された課題]

・持続可能な財源の確保へ→補助金中心から自主財源確保へ

・担い手となる人材の育成と確保→少子高齢化の壁、関係人口の拡大

・観光受入体制整備と経済効果拡大→地域住民の意識改革

【考　察】

この『大地の芸術祭』は地域理解がなければ成立しない。「地域と共に」を大事に20年余り取り組んできている。それでも前述の「残された課題」にあるように難題は厳然としてある。財源の確保しかり、人材の育成と確保しかり、一定の経済効果あっても住民理解重視は言わずもがなである。いずれにしても、この芸術祭は維持継続されていくであろうから、行政として課題の改善を進めながら、トップのビジョン・姿勢の明確性に懸かってくると考える。それにしても、タイミング悪く定休日の視察研修であったので会場巡りは出来ず誠に残念至極であった。

そこで思い出すのは本町の『アートタウンインミサト2007　風と土の芸術祭』で、17年前の一時一大イベントである。いわゆる空間芸術インスタレーション中心であったが、焼き物の町ならではの展開ができ、著名な作家の作品も街中に展示、野焼きまで実施、ワークショップや土鈴の調べに詩人の会の会場巡りながらの野外朗読などなど、成果物である記念冊子「写真集」を開いて驚くほどの作品群である。私はアートタウンミサト実施部会長として関わった。トリエンナーレやビエンナーレで継続できればという話しは聞いたが、商工会中心の実行委員会による県の町村合併記念補助事業であって、町として継続意思は出さなかった。商工会としての労力は半端でなかった記憶があるが、やり切ったのである。その経験や実績はその後生かせていない。行政もそうであるように、人材、職員の転勤・移動も維持継続困難要因として大きいと考えている。

この度の視察研修においては、その事とやはりトップのビジョンの在り様が肝要であることを再認識して来れて有意義であったとしたい。

◆『まちの産業発見塾について』

[目　　的]

地元十日町市・津南町にいて学び、将来的な地元への就業意識を醸成し地元定着を目指し、地域内産業の人材確保促進につなげる活動の一歩にする。

[事業概要]

主　催　十日町地区雇用協議会（各市町・ハローワーク・8余の各商工団体）

後　援　各学校ＰＴＡ団体など

時　期　10月中の二日間

参加企業　43社（他希望企業あるが会場スペースに困難）

（医療・福祉　卸売・小売・サービス　観光・宿泊　建設・建築　情報サービス
電気工事　放送　製造　農林業　設備　電力　その他警察・消防）

参加人数　850 人ほど

・地域内事業所のブースを設け、「知る」「見る」「体験する」場の提供。

・中学生には体験中心、高校生には企業プレゼンを主にする。

・1 グループあたり 5～6 人を基本に１８分定時間内で各企業ブースを巡る。

・フリータイムを設けて個別希望巡りできる。

・アンケート調査を参加事業所・教師・高校生からしていて、３者の様々な声を把握していて改善の助けになっている。概ね好感、有意義な事業である確認にもなっている。

高校生進路で地元就職考慮者 50.8%　　就職先決定は待遇面重視、

ブース訪問で理解できた 96.8%　　進路思考上参考に 81.1%

・管内就職率　R1　42.1%　R2　50%　R3　58.1%　R4　56.9%　R5　34.8%

・企業側のイメージ向上他メリットを 7 点ほど提示しているが、企業版ふるさと納税は無い。

・開催費用　協議会 140 万円　十日町市 28 万円

【考　察】

この事業取り組みの背景、課題、目的は本町にも共通していることであることから、本町での試みは可能か考察してみたい。この十日町市の取り組みは中学生・高校生対象であることが肝と考える。まず参加事業所がどれだけあるか探る必要があるが、本町内企業だけでは職種的に難しいならば近隣企業への打診も必要になるか等事前調査は不可欠であろう。定番のように「地元に残ってほしい」とか「地元に帰ってきてほしい」と言うだけでない町としての本気度を示す実行動が望まれる。コロナ禍前の夏の成人式に行っていた地元企業紹介コーナー設置の取り組みがあったと思う。成人歓喜のあの短い時間の中、どれほどの関心を呼べたか、プレゼンできたのか、接触はあったのか聞いてはいないが、効果は疑問であった。私は、十日町市「まちの産業発見塾」のヒントを今後に生かし参考にできる事例視察であったと考え有意義としたい。

◆『川場田園プラザについて』

山麓地形を有効に活かした「川場田園プラザ」は広大な道の駅である。全国道の駅グランプリで 2 年連続第一位を受賞している。家族で一日楽しめると言うチャッチフレーズのごとく、広大な敷地に大きな池を囲むようにして物産センターや和洋飲食店、何棟もの休憩スペース、大人も子供も楽しめるネットアスレチック、大滑り台に遊具プレイゾーン、ほかヨーグルト、チーズの製造工場、陶芸体験教室まであって驚きであった。この道の駅ではオンラインショッピングも可としている。池の近くのイベントスペースでは男女による曲芸演技が人々を沸き立たせていた。

確かに平日なのに来場者の出入りはひっきりなし、幼稚園児の集団もいたし、前日日曜日の運動会の代休により子ども連れが多いことはあったにせよ、これだけの環境と施設整備がされている道の駅は魅力的であり、飽きずに一日楽しめるチャッチフレーズは嘘ではないことが納得できた。誰でも寛げる環境を作り上げて経済効果抜群の運営形態を構築していると推察できる。全国的に道の駅の運営は厳しい所が多いと聞いている。川場田園プラザは実際どうなのか等については研修先ではないので伺えなかった。こういう家族で 1 日楽しめ、老若男女が寛げる「道の駅」もあることを知ったのは有意義としたい。